

令和2年度1学期の始業式を5月11日、12日に学年を分けた形で行いました。
最後のページは生徒に配布したものです。

令和2年度 第1学期始業式 校長式辞

2020年5月

2年次・3年次に進級したみなさん。進級おめでとう。

4月22日の入学式で93名の新入生のみなさんを迎え、令和2年度は全校生287名でのスタートとなります。

さて、5月9日・10日に予定されていた地区総体をはじめとして、全国総体の中止も決定するなど、日本中の高校生が今、この先がはっきり見通せない中で毎日生活せざるを得ない状況になっています。

いかにコロナウイルスの影響が大きいかは言うまでもありませんが、いつ収束するのかわからない現在の状況、見通しのつかない不安な生活を少しでも早く終わらせたいという願いは誰もが共通して持っていることです。そのためにこれまでの、そしてこれからの臨時休業という措置にもなっています。

このような状況の中で、コロナ感染拡大防止への対策を行いながら学校を再開するため、先生方は今日の日を迎えるまでに様々な準備をしてきました。

例えば、登校時の健康観察や授業での「3密」をできるだけ避けるための工夫や学校内の消毒体制についてなどです。その上で、みなさんには2つのことをお願いしたいと思います。

まず一つ目は、「正しく恐れる」ということです。

「正しく恐れる」というのは、正しい情報に基づいて、正しい行動を取るということ。現在、新型コロナウイルスについての情報は2種類に分けられます。

1つは、「3密を避ける」や「不要不急の外出をしない」、「体温を測って登校する」などの対処法についての情報です。感染拡大防止のために、学校でも可能な限り準備をしてきたことは先ほどお話しましたが、これを毎日実行し、その効果を上げていくためには、高畠高校で生活しているみなさん全員の協力と団結がなければ、その効果は得られません。コロナとの戦いのために、先生方の指導に基づいて正しい行動をお願いします。

もう1つの情報は、県内のどこでどのような経路で感染したかという情報です。この感染経路の情報は、決して、感染者を責めるために出されている情報ではないことをしっかり心に留めてください。私たちが戦うべき相手はコロナウイルスであり、人ではありません。間違わないでください。感染経路情報とは、私たちがどういう行動に気をつければよいのかを判断するための情報なのです。

この感染経路情報に関する間違っただ行動の例を取り上げた新聞記事を皆さんの手元に配布してもらいました。

「感染恐れ 誰かを責める」と題したこの新聞記事（4/29 朝日新聞記事）が伝えているのは、次のことです。

- ① 感染することに恐怖心を持つことは当然だが、人を責めるのは間違いであること
- ② 最近の日本社会の一面として、関心の高い情報が流れると「すぐに個人を追及したい」という欲望の渦が巻き起こります。たとえ悪意がなくても、たとえ正義感を持って流す情報だと思っても、簡単にその渦に巻き込まれ、人を傷つける暴力的な行為になるということ
- ③ つまり、当事者に苦痛を与える「加害者」になってしまうこと
- ④ 一方で、拡散した情報がデマだとわかった瞬間から発信者自身が世間から非難を集中的に浴びせられる「被害者」にもなる

ということです。とにかく、**自分の想像を超えて、他人を苦しめ、それがフーメランのように自分に戻ってきて自分をもひどく苦しめる危険な行為**だということです。ですから決してこのような行動をしないでください。

2つ目はこの一学期の過ごし方についてです。それは、**自分の未来につながることを何か一つ決めて、それを継続してほしい**ということです。例えば、勉強で自分の道を切り開いていきたい人は、検定試験の問題集を毎日2ページずつ解くのもよいでしょう。毎日、本を読むでもいいでしょう。家の仕事や手伝いを何かひとつ継続してやるでもいいでしょう。継続することは、自分が想像している以上に偉大な力を創ります。

なかなか継続できない人を「3日坊主」と言いますが、4日目にやらなかったとしても5日目からまたやり直せばいいのです。何回でもやり直しはできます。1学期の過ごし方として、とにかくあきらめずに、自分で決めたものを継続することにチャレンジしてほしいと思います。

それはなぜか？ 継続することが将来の「自信」になるからです。人間は何も武器を持たずに生まれてきます。そんな私たちが**この厳しい世の中を生きていくために自ら作ることができる武器のひとつが「自信」**というものです。「自信」はどうやってつくるか。さまざまな作り方があるかもしれませんが、校長先生は「やめたくなかったことは何回もあったが、とにかく継続できた」と自分に誇れるものを持つことだと思っています。初めの一步を踏み出すチャンスは毎日あります。

いままでのように学校で勉強ができないという特殊な状況ですが、「自信」という人生の武器をつくるための時間にすることは誰にでもできます。

以上、2つのお願いをして 令和2年度1学期の式辞とします。

二つのお願い

令和2年度 1 学期始業式 2020年5月

1 「**正しく恐れる**」・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のために

(1) 正しい情報に基づいて 正しい行動をとる

高畠高校で生活している全員の協力と団結がなければ、その効果は得られません。コロナとの戦いのために、先生方の指導に基づいて正しい行動をお願いします。

(2) 私たちが戦うべき相手はコロナウイルスであり、人ではありません

間違った行動の例・・・「感染恐れ 誰かを責める」と題した裏面の新聞記事が伝えているのは、次のことです。

- ① 感染することに恐怖心を持つことは当然だが、人を責めるのは間違いであること。
- ② 最近の日本社会の一面として、関心の高い情報が流れると「すぐに個人を追及したい」という欲望の渦が巻き起こります。たとえ悪意がなくても、たとえ正義感を持って流す情報だと思っていなくても、簡単にその渦に巻き込まれ、人を傷つける暴力的な行為になる。
- ③ つまり、当事者に暴力的な苦痛を与える「加害者」になる。
- ④ 一方で、拡散した情報がデマだとわかった瞬間から発信者自身が世間から非難を集中的に浴びせられる「被害者」にもなる。

「とても危険な行為なのだ！だから決してしないこと」

2 「**ひとつのことを継続しよう**」・・・1学期の過ごし方として

継続することが将来の「自信」になる

1学期は「自信」という人生の武器をつくるための時間にしよう

裏面に新聞記事あります (4月29日 朝日新聞)

※HPでは割愛しました